

小学校からの外国語活動の実施 ALTの増員や教員への対応は

問 本市では、平成21年度から小学校5、6年生を対象に、外国語学習の充実を目的とした授業を盛り込むこととしているが、それに関し、次の3点について伺う。

①年間35時間中20時間の授業時間数が予定されているが、外国語学習のための指導助手であるALTの増員は可能なのか。

②アンケート結果では、小学校6年生の半数以上が、中学校での英語の授業を不安に感じているが、その対策は。

③外国語の授業を経験していない小学校の先生方の戸惑いが予想されるが、その対応は。

答 ①新学習指導要領により23年度から導入される小学校5、6年生の外国語活動を、本市では前倒しして21年度から実施し、ALT



▲ALTによる授業風景

Tについては、15人から25人に増員する予定である。

②小学校5年生から外国語活動を実施すること、早い段階から英語に慣れ親しむことができ、中学校での英語授業に抵抗なく取り組めると考えている。

③核となる教員対象に、18年度から外国語活動に関する研修を実施しており、ALTとの実践的な英会話や、授業の進め方の練習などを通して指導力を身に付けている。今後とも、教員が自信をもって指導にあたれるよう支援していく。

自給率の向上には 米・米粉の消費拡大が重要だ

問 食料に対する不安から、自給率の向上が求められているが、そのためには米の消費拡大・米粉利用拡大が重要な施策になると考えている。

そこで、宇都宮ブランドとして「みやおとめ」おにぎりをPRするとともに、「おにぎりの日」や「おにぎり運動」を展開してはどうか。

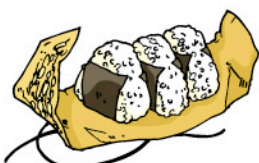
また、米粉料理の講習会の開催や、米粉製粉機械を設置し、消費者が手軽に利用できるようにし、普及促進、啓発運動の一環として進めてはどうか、見解を伺う。

答 本市では、これまで、農林業祭をはじめとした様々なイベントにおいて、宇都宮のブランド米である「みやおとめ」のおにぎりの試食会などを実施し、大変好評を得て

いる。

また、稲作が主流となつている本市は、食味の優れた良質米の産地であることから、食生活の中で、改めて米を見直し、消費をより拡大していくため、「おにぎりの日」や「おにぎり運動」についても、検討していく。

米粉の普及促進については、市民が、米粉を身近に感じ、家庭で米粉料理を楽しむことができるよう、21年度には、米粉料理の講習会や試食会を開催するとともに、手軽に自らの米を製粉できる米粉製粉機を導入し、一層の普及を図っていく。



都市間競争を勝ち抜くため 宇都宮市のイメージアップを

問 今後ますます都市間競争が激化する中、本市がさらに多くの人や企業に選ばれ、持続可能な都市として発展しつづけるため、「宇都宮市はすごい」と言われるような目立つ取り組みをする必要がある。

そこで、次の3点を提案し、所見を伺う。

①市長自らがメディアに進出し、トップセールスを行ってはどうか。

②時期を見た、話題性のある取り組みを、戦略的に行ってはどうか。

③行政的な取り組みを本にして、出版してはどうか。

答 ①本市の魅力や優れた取り組みを、あらゆる媒体を活用し、積極的にアピールしていく必要がある。市長自身が先頭に立ち積極的にPRしていく。



▲宇都宮プライドのロゴマーク

でトップクラスな取り組みや、宇都宮らしい独自性を発揮できる取り組み、全国に先駆け取り組みを積極的に推進してきた。

今後とも、市民サービスや本市の評価向上を念頭に、思い切った企画や情報発信などに、戦略的に取り組んでいく。

③長年にわたり伝えていくべきものや、ストーリー性のあるものなど、書籍による情報発信が適しているものについて活用していきたい。